図書ニュース

第３号

大阪府立北野高等学校図書館　2011.7.9 発行

～新書の世界へようこそ～

自分が高校生の時を思い出してみると、ラグビーばっかりで本を読んだという記憶はほとんどありません。大学生になって大量に本を読み始めましたが、その時に思ったことは、「高校生の時に本をもっと読んでいればなぁ」。やっぱり高校生という青春真っ只中の多感な時期に本を読んで影響を受けるという経験は何物にも代えがたいものです。ですから、みなさん（特に部活で忙しくしているみなさん）に「少しでもいいから本を読んでほしい！」。そういう気持ちでこの図書ニュースを書いています。さて、今回紹介するのは全て新書です。新書は専門書ほど厚く、難解ではないので読みやすい。けれども、読み応えがあります（そして値段も安い）。この夏休みにぜひ一冊でもいいからここで紹介した新書を手にとって読んでみてください。

北野高校の学校目標の中に「未来のリーダーを育てる」という目標があります。

なので、まずはこの本から

この番号は図書館での請求番号です

リーダーは半歩前を歩け－金大中というヒント　姜尚中　（３６１－Ｋ３２－１）

在日に関する書が多い姜氏がリーダーシップについて書いた本を紹介します。政治そして経済の世界でも転換期にさしかかっている今、優れたリーダーとはどういう人物かまたリーダーには何が必要か。姜氏は本書の中で７つの「リーダー・パワー」なるものを掲げリーダーに必要な“力”を提案しています。姜氏はこの「リーダー・パワー」は誰でも獲得できるものだと述べています。リーダーというのは何も首相とか社長だけの話ではありません。もっと身近なところで人を引っ張らないといけないという場面が必ず出てきます。その時にうまくメンバーの力を引き出して成果を出すことができるか。この「リーダー・パワー」は非常に参考になります。

姜氏の新書では他に***悩む力***（１５９―Ｋ１８－１）もお勧めです。

その「リーダー・パワー」の中の一つに「コミュニケーション力」があります。ということで次はこの一冊。

なぜあの人とは話が通じないのか？ー非・論理コミュニケーション

中西雅之（３６１－Ｎ１６－１）

大学に入って３年生の終わりになれば、多くの人が就職活動をすることになります。さて、就職活動で企業が一番求めている力とは何でしょう？それは「コミュニケーション能力」です。でもコミュニケーション能力ってどうやって高めることができるのでしょう？人とたくさん喋っていれば身につくものなのでしょうか？この本ではコミュニケーションは「言葉や論理のみに非ず」であり、「非・論理コミュニケーション」、そしてそのコアになる「コミュニケーション・コンピテンス」を高めることがコミュニケーション能力を高める上で不可欠であるとしています。明日から意識して実践できそうなことが書かれています。「あの人とは話ができる」と言われてみたくありませんか？

効果的なコミュニケーションを探る上で、***知的文章とプレゼンテーション***　黒木登志夫（８１６－Ｋ１６－１）も参考になるかもしれません。

それでもやはりコミュニケーションにおいては「言葉」は重要ですよね。次はその「言葉」に関する一冊。

曲がり角の日本語　　水谷静夫（８１０－Ｍ１３－１）

明治時代には「全然いい」のように「全然」が肯定と呼応する例は珍しくなかった！？ーこの本は岩波国語辞典の編纂に初版の時から関わっている筆者が、豊富な事例分析をもとに今問題とされている日本語の使い方や、敬語を一刀両断します。今の敬語表現は相手を敬う表現ではなく、多くが婉曲表現であり、文化審議会は「誤った敬語」を教えているとの驚くような主張には読んでみるとうなずける所が多くあり、自分の敬語もそうなっているなとギクリとさせられました。さらに筆者は１００年後の日本語予測までしています。「切符を手に入れたから芝居を見に行こう」が「チケットゲットしたからシアターしよう」となるそうです。漢字が全くないですね。なぜでしょう？気になった人はぜひ本書を読んで自分で確認してみてください。

そして自分の日本語大丈夫かな？と思った人は ***語感トレーニング***　中村明　（８１０－Ｎ１１－１）も読んでみても面白いかもしれません。

次の一冊も「言葉」に関する本ですが、「言葉」を通して日本人の感性を探っているのが非常に興味深い本です。

日本的感性ー触覚とずらしの構造　　佐々木健一　（７０１－Ｓ２－２）

この本は筆者が西洋人と日本人の美に対する感じ方の違いを和歌を通して論じています。筆者は本書の中で花の好みの違いを取り上げ、日本人は桜に関心を持ち、美しいと感じるが、西洋人は桜よりも一輪のチューリップやバラに関心を持ち美しいと感じると述べ、なぜ日本人は桜を美しいと感じるのか、その日本的感性を副題にあるように「触覚性」と「ずらし」

に求めています。確かに花見とか夜桜は日本では欠かせないものですし、桜は美しいですよね。どうしてそう感じるのか、この本を読めば謎は解けます。素材となる和歌を語彙そして文法の２面から取り上げていて、古典の勉強にもなります。文章は少し難しいですが、本格的な新書です。ぜひ借りて読んでみてください。

次の一冊も「言葉」に関する本ですが、言語教育に関する一冊です。

英語と日本語のあいだ　　菅原克也　（８３０―Ｓ１１－１）

ニュースにもなったので、皆さんも知っているかもしれませんが、２０１３年度から高校の英語の授業は「英語で行うこと」が「基本」となります。そんな中で筆者は本当に日本語を使った文法・訳読の授業は時代遅れなのかと疑問を呈しています。皆さんも英語の予習をするときに本文訳を書いていて、「これは何の役に立つんだ？」と思ったことがあるかもしれません。筆者は「読む」力は日本における英語学習の重要な回路であり、英文の意味を第一言語である日本語で理解するということは知的訓練として必要であり、大学の外国語教育、教養教育、専門教育において必要不可欠なことであると述べています。このテーマは非常に意見の分かれるところです。一度本書を読んで、改めて自分の意見を構築してみてはいかがでしょう。

英語教育に興味があるという人は***日本の英語教育***　山田雄一郎（８３０－Ｙ６－１）も読んでみるといいかもしれません。

そして「言葉」についての本をもう一冊。

ことばと国家　　田中克彦　（８０１―Ｔ５－２）

これぞ新書！３年間のうちにぜひ読んでほしい一冊です。言語学、特に社会言語学の入門書として最適です。私たちは「日本語」ではなく、「国語」という名の教科で日本語を勉強していますが、他の国ではそういった言い方はいません。English なら English、German なら German です。なぜなのでしょう？言語は政治を色濃く反映します。本書の表現を借りれば、「国家がことばを作る」のです。「国語」という表現には「日本を単一民族国家としてきた日本人の意識」が表れ出ているのです。本書はこういったテーマ以外にもさまざまな「ことば」に関わるテーマを取り上げています。「方言と標準語の関係性とは？」、「文法はどうして生まれたのか？」。「ことば」とは？「言語」とは？私たちが普段何気なく使っている「ことば」は非常に興味深いものなのです。

言語学に興味を持った人は同じく田中氏の新書 ***言語学とは何か***（８０１－Ｔ５－４）も読んでみましょう。

「日本を単一民族国家としてきた日本人の意識」というのは言語だけの話ではありません。社会の中での人とのつながりにおいても日本人のこの意識を伺うことができます。ということでこの一冊。

差別と日本人　　野中広務　辛淑玉（３６１－N１７－１）

この本は元衆議院議員で官房長官も務めた野中広務と在日韓国人で人材育成コンサルタントの辛淑玉の対談を基にした本です。本の中で野中さんは被差別部落出身者の視点から、辛さんは在日の視点から、日本における差別問題と、日本人の差別意識を浮き彫りにしています。様々なことが語られますが、日本における差別問題の根深さをやはり感じました。「部落差別や外国人差別はもう過去のもの。」－そんなことは決してありません。日本だけでなく、世界にはまだまだ差別が残っています。皆さんはこれから大学や社会で様々な人と出会い付き合うことになりますが、自分が無知であるが故に差別と思っていない一言で相手を立ち直れないくらい傷つけることがあるかもしれません。まずは自分の国の差別問題から知ることを始めてみませんか。

在日外国人の問題については***在日韓国・朝鮮人***　福岡安則（３１６－F８－１）、部落差別問題については***部落差別をこえて***　臼井敏男（３６１－U６－１）をぜひ。

そして最後は私が今読んでいる一冊を紹介します。

超解読！はじめてのカント『純粋理性批判』　　竹田静嗣　（１３４－T５－３）

「哲学」と聞くと非常に難解なイメージがあります。しかもカントはデカルト、ヘーゲルと並んで近代哲学の代表的な人物です。その人物の書を「超解読！」するというタイトルに引かれこの本を取りました。カントみたいな難解な哲学をついに理解できるチャンスか！？と思いワクワクして表紙をめくりました。しかし、しかしです。２ページからいきなり「形而上学とは何か」という話から始まります。。。何とか理解し、次へ進むと、出てきたのは「先験的感性論」「経験的直観」などさらっと読んだだけではよく分からない言葉ばかり。。。正直３０ページあたりでめげそうになります。「どこが超解読なんだ！」と思っていると、各章の最後に章末解説として筆者がカントの主張をまとめているのですが、これが本当に分かりやすい！これがあるから超解読なのかと納得がいきました。皆さんも少し背伸びして哲学書なるものを読んでみませんか？

今回新書を取り上げましたが、紹介した新書は全て私自身も読んだ新書です。少し理解するのが難しい本もありますが、そういった新書を読むのも、専門書を読む一歩手前のいいステップになると思います。一冊からでも構いません。夏休みが始まる前に図書館へ行って本を借りてみましょう！！